

シンポジウム

東北地方における標識調査

竹丸 勝朗（宮城）

開催趣意書

2003年に開催された「北陸地方における標識調査」では北陸三県日本海周辺での鳥類標識調査の結果から重要な湿地の保護などに大きな役割を果たしていると結んでいたが、東北地方には青森県下北1級ステーション他6箇所、2級ステーションが設置されている。この中で海鳥類を調査している3箇所があり特に海洋性の海鳥についてはその意義は大きい。

大沢八洲男調査員から「飛島（山形県酒田市）における標識調査」として本土では確認の少ない小鳥類の標識調査と飛島以外で回収された興味深い例について、作山宗樹調査員から「岩手県内の鳥類標識調査地の紹介」と「盛岡市雫石川河川敷における標識調査」について、竹丸勝朗調査員から宮城県女川町沖合いの無人島「足島におけるウトウの標識調査」について32年間の長期継続調査の結果から31年経過のウトウが回収されたこと、杉野目 斉調査員から「海岸林での標識調査」としてこれまで81種10709羽に標識調査した結果、県外や国外からの回収例などについて、菊田英孝調査員からは「宮城県鳴瀬川河口ヨシ原における標識調査」として45種6459羽の小鳥類標識調査から県外、国外からの回収などについて、成田章調査員から「蕪島のウミネコ標識調査」について報告されることになっている。

東北地方の海鳥の標識調査については「足島」と「蕪島のウミネコ」のみの報告であるが岩手県のオオミズナギドリ、ウミツバメ類についての発表は見送られてしまった。海鳥の標識調査は全国的に見ても小鳥類を対象とした調査より少なく、激減している海鳥の保護においても重要な課題といえる。今回の発表者について他のバンダーにも事前に打診をしたが諸般の事情により発表まで至っていないとの回答が多かった。東北地方の鳥類の渡りの実態を把握するにしても実働バンダーは少なく、山階鳥類研究所標識研究室から直接出向して標識調査が実施している傾向がみられるが地元の方が取り組むことも今後の課題でなかろうか。

2級ステーション設置の目的は主に国内での渡り鳥の移動について追跡するためのものであったが秋田県、山形県（飛島を除く）、福島県にはステーションが無く、そのためか標識調査は殆ど少なくそれらの地域に在住するバンダーの育成と普及活動に今後大きな期待をし、その契機になれば幸いである。